

# 教育ボランティア ニュースレター

第9号  
発行日 平成23年11月

平成23年度も、多くの教育ボランティアさんに、本学の教育にご協力いただきました。このレターでは、「在宅ケア論」での**教育ボランティア**さんの様子や学生の学びをお届けしたいと思います。

## 御存じですか？「訪問看護」

主治医の指示を受けて、看護師が自宅を訪問し、障害やご病気があっても安心して生活できるように看護を行うものです。ご本人だけでなく、支えておられる家族もサポートします。

「教育ボランティア」さんは、現在も募集中です。お友達やご近隣の方をお誘いいただき、是非学生の教育にご協力ください。

ご登録希望やお問い合わせは、神戸市看護大学健康支援地域連携センター；古谷（078-794-8080：学校代表番号）までお願いします。

編集・発行

神戸市看護大学

健康支援地域連携センター

広報部門

## ご夫婦ペアで参加いただきました！！ ～ “生活の場” での看護「在宅ケア論」～

平成23年7月27日（水）に、ご夫婦ペアで3組の教育ボランティアさんにご協力を頂きました。この演習は、在宅ケア論の「訪問看護」の実際を学ぶものです。病院という施設でおこなう看護ではなく、「生活の場」に出向いて行うケア時のマナーや配慮、病院での看護との違いなど在宅看護の特性を学びます。今年初めてご夫婦でご参加頂き、療養者ご本人とその家族（妻）の双方に対応するロールプレイの場面を設定することができました。また、演習の前にはシナリオの確認や介護保険についてのミニ講話（ビデオ観賞）も受けて頂きました。

演習室に、玄関やリビングなど自宅のようなスペースを設置し、教育ボランティアさんには、退院して間もない右半身麻痺のある療養者とその介護をされている妻を演じて頂きました。訪問看護師役の学生は、訪問バッグを持ち、玄関のチャイムを鳴らすところから体験しました。靴を揃えエプロンを付け、手を洗う為の水道をお借りするなど、一つ一つの行動に理解を得るよう配慮しつつ、血圧測定や歩行介助などを行いました。学生たちは、ボランティアさんの臨場感のある演技に圧倒されながらも、病状に対する療養者の不安や妻の介護疲れの様子に気づきその場で対応する難しさと重要性をも学ぶことができました。↑

また、夫婦間のやり取りから療養者と介護者の求めるものの違いなど、学生同士の演習では得られない学びを頂きました。

教育ボランティアさんからは、「介護保険のしくみが分かった」、「自宅で病気になっても大丈夫」と自宅での介護方法について知る機会になったという感想を頂きました。



【血圧測定をおこなう様子】



【療養者とのやりとりの様子】

教員にとっても、学生の可能性など多くのことを気付かせて頂く演習となりました。

この演習は来年度もおこないます。ご夫婦で参加してみたいと思われる方は、大学までご連絡下さい。お待ちしております。

（健康生活看護学：成瀬・宇多）